



愛知長久手ロータリークラブ

2012~2013

WEEKLY



例会日=毎週火曜日 PM12:30 例会場=長久手市まちづくりセンター
会長 安田茂樹 幹事 小谷恒夫 会報 吉田濱一
Email : a.nagakuterc@aurora.ocn.ne.jp

事務局 TEL:0561-64-5446
FAX:0561-64-5459



奉仕を通じて 平和を



本日 第 472 回 例会 2012 年 9 月 11 日 (火 曜 日) 第 465 号

<本日のプログラム> Today's Program

点鐘

<ロータリーソング> 「私たちの生業」

演題 : 日本の財政事情について

講師 : 林 正俊さん

前 回 第 471 回 例会 2012 年 9 月 4 日 (火 曜 日) 記 録

<ロータリーソング> 「君が代」「奉仕の理想」
「四つのテスト」唱和

総合司会 加藤 猛 会場設営委員長

<出席報告>

会員総数 21名 (免除会員1名)
出席者 11名 出席率 55.00% 前々回補正出席率 95.4%



刺し身
天ぷら
鯛梅煮
秋鮭焼き物
松茸ごはん

<来訪者>

ゲスト : (有)ネイリックス 代表取締役 宮島 桂子様

<会長挨拶>

愛知長久手ロータリークラブ 安田 茂樹会長



今日は宮下さんのご紹介で、(有)ネイリックス 代表取締役 宮島 桂子様にごゲストでお越しいただいています。名古屋でも古参のネイル関係の学校とサロンを運営していらっしゃいます。このような業界も初めてですので、是非入会していただき、私たち男性ではわからない業界なので教えていただければと思います。どうぞよろしくお願ひします。皆様もお聞きだと思ひますが、最近「コラボ消費=シェア」という言葉がはやっています。共有すると言う事です。3年前位からアメリカの方から出ておりますが、日本でも3・11の大震災を受けそう言った時代に入っていくのではないかとされています。

はないかと言われている。

コラボ消費の登場

コラボ消費に参加するには、大きく分けて2つのやり方があり、それぞれが別の人々を惹きつけている。ひとつは、個人プロバイダーとして、貸し借りやシェアの対象になり資産を提供する立場、もう一つは、個人ユーザーとしてモノやサービスを利用する立場。両方の立場で参加する人もいれば、一方の立場だけが良いという人もいる。

プロダクト=サービス・システム(PSS)

ある製品(プロダクト)を100%所有はせずに、その製品から受けたサービスにだけお金を払う、利用した分だけ費用を負担する方式。IT企業で言うASP的なサービスで、ASPが業績を伸ばしているように、アメリカでは、車や駐車場、はてはオフィスまでシェアするサービスが急速に広まっている。

再配分市場

ソーシャルネットワークを通して、要らなくなった個人の持ち物を誰か欲しい人に配り直す方式。お金を払うタイプもあれば完全無料なもの、物々交換するものもあり、日本でも「ヤオフク」などがある。再配分市場では中古品を廃棄せずにリユースと再販を進め、また新品を生産することで産まれる廃棄物やそこに投入される資源を大幅に減らす事ができ、持続可能な商取引の在り方として注目されている。

コラボ的ライフスタイル

同じような目的を持つ人が集まり、時間や空間、技術やお金といった、目の見えにくい資産を共有する方式。オフィスや仕事、時間、スキル、食べ物、駐車場などのサービスが例として挙げられている。

コラボ消費の4大原則

「クリティカル・マスの存在」「余剰キャパシティの利用」「共有資源の尊重」「他社との信頼」
クリティカル・マスとはある商品やサービスの普及率が一気に跳ね上がるための分岐点となっている普及率

の事である。コラボ商品のモデルのほとんどは、人々に今までとは少し違う行動をとる事や、古い習慣を変えることを求めるからだ。人々がこうした変化を受け入れるためには、クリティカル・マスと言えるほどの大勢の消費者がやはり変化していることを目の当たりにしたり、実際に経験したりする必要がある。私たちは周囲の人がしていることを見て、自分の行動を決めることがほとんどだ。

余剰キャパシティの利用

インターネットの存在理由、大勢で余剰キャンパスをリアルタイムにシェアできるプラットフォームが、インターネットだ。

共有資源の尊重

人類全員が所有する資源を示すこの言葉の起源はローマ時代にさかのぼる。古代ローマ人は、特定のものの、例えば公園や道路、公共の建物などを「レ・パブリカ(公共の利用の為にしておくもの)」と呼び、空気や水や自然の動物、また文化、言語、一般知識などを「レ・コムニス(全員が共有するもの)」と呼んだ。この考えは、広く浸透し、15世紀まではほとんどだれも疑問を抱かなかったが、その後イギリスで誰のものかわからない放牧地がとげのある柵で囲い込まれ、個人の所有物として分割された。私有地のコンセプトと土地の囲い込みは18世紀と19世紀を通してヨーロッパとアメリカに急速に浸透した。資源を皆で共有することは個人による乱用や誤用の危険があるととして、私有地が正当化された。

他社との信頼

人々が協力してプロジェクトや特定のニーズに当たれるような適切なツールを持ち、お互いを監視し合う権利を上手に管理できれば、「コモナー(共有者)」は共有資源を自己管理できる。これまでの大量消費文化は「大量生産」という技術革新により発展してきた。この文化を「ハイパー消費」と位置付けしている。他人と違う自分、他人から「見られたい自分」など、自らのアイデンティティーを表現するために、様々なモノを所有してきたのがこれまで。有名なマズローの段階欲求説中の「生理的欲求」「安全欲求」「帰属欲求」「承認欲求」「自己現実欲求」の各段階でモノを所有することにより、自尊心やアイデンティティーを得ていた。しかし、もしかすると企業やメーカーが絶えず新しい購買需要を創出するために無理やり作り上げてきたイリュージョンだったかもしれない。モノが行き渡り、過剰な浪費やそれによって生じる環境の負荷によりやがて人々は気づきはじめ、サステナビリティ(持続可能性)に注目が集まっている。

ハイパー消費社会の習慣として挙げられている「所有する・次々と買い換え・捨てる」というライフスタイルに対して、コラボ消費では「所有しない・捨てない・共有する・直接対話する」と言った方向への転換が見られる。今後はモノを自分が所有することなく、多くの人とシェアすることで「さらに高い満足感」が得られるという、まったく新しい購買メカニズムが生まれることが考えられる。コラボ消費の経験は「消費すること」もさることながら「コラボレーションすること」自体が楽しいから。環境に優しく、同時に多くの人との絆を強められるシェア(コラボ消費)という新しいライフスタイルが、必死に震災から立ち直ろうとしている今の日本において定着するのは、非常に理にかなっているのではないかと思われる。

今後自分たちの企業にコラボ消費がどの様に、色々な業種と協力しながらはめていけるのか、少しでも仕事がプラスになる様にと思っています。

<委員会報告>

◆ニコボックス委員会

吉田濱一親睦活動委員

- ・宮島さんよくいらっしゃいました。ごゆっくりして下さい。赤塚さん卓話よろしく
お願いします。本日もよろしくお願いします。 安田 茂樹
- ・今日もよろしくお願ひ致します。展覧会の際はありがとうございました。 赤塚 一三
- ・(有)ネイリックス宮島様ようこそ。赤塚様卓話楽しみにしています。 伊藤 広治
- ・本日の卓話楽しみにしています。本日も宜しくお願ひします。宮島さんよう
こそ、歓迎します。 加藤 猛
- ・赤塚さん卓話ご苦労様です。宮島桂子さんようこそいらっしゃいました。ぜ
ひご入会をお待ちしております。 中川 清子
- ・宮島さんようこそお越しくださいました。ごゆっくりして行って下さい。 日野 典子
- ・宮島桂子様ようこそお出でくださいました。ごゆっくりして下さい。本日もよ
ろしくお願ひ致します。 松原 正敏
- ・宮島さんいらっしゃいませ。楽しんで行って下さい。本日も宜しくお願ひします。 宮下智香子
- ・(有)ネイリックス宮島様ようこそお出でいただきありがとうございます。赤塚
様卓話楽しみにしております。 山田 文明
- ・今、店頭での米が不足しています。我が家の新米が取れましたので少しで
すがお届けします。本日も宜しくお願ひします。 吉田 濱一
- ・本日もよろしくお願ひします。 小谷 恒夫

“ 人のふり 我がふり直す ダイエット ”

(敬称略)

◆研修・情報委員会

山田 文明委員長

8月22日 13:30～ 名鉄グランドホテル

- ・クラブにおけるRLI方式取り入れについて
- ・委員長後の年度は初心に帰り新会員の気持ちでロータリーに臨む

<幹事報告>

小谷恒夫幹事

- 1) 第3回俳句大会の開催:平成24年11月4日(日)13時～
愛知県産業労働センター「ウイंकあいち」・・・参加希望者は事務局まで
- 2) 第11回ロータリー全国囲碁大会:平成24年10月20(土)・・・詳細は事務局まで
- 3) 例会終了後 第3回役員・理事会
- 4) 9月16日(日) RLI2760分科会研修パート I 9:30～星城大学リハビリテーション学院
出席者:山田文明会長エレクト
- 5) ホームページにロータリーインターナショナル・ロータリージャパン・ロータリー文庫、2760地区ガバナー事務所・瀬戸RC・尾張旭RC・瀬戸北RCへのリンク掲載
- 6) 配布物= 2011～12年度ガバナー月信最終号
ガバナー月信 8月号・9月号 回覧

<卓話> 演題 : 長久手市アートフェスティバルについて
 講師 : 赤塚 一三さん

10月20日から26日まで、文化の家 展示室

地域文化の振興と交流、芸術の発信を目的とし、5年前から催されています。以前より文化の家に関わり ものの見え方 展 等を企画し、自分が画廊や作家に声をかけ参加してもらい全国レベルの絵を地域の人が間近に観てもらおうことをしてきましたが、この度は 時の見え方 展 とし、この地と、文化の家から育ち全国で発表を続けている作家と、この地で文化の家に関り、絵を続けている市民の方たちにも参加していただき、展覧を楽しんだり、ギャラリートークしたりして、アートを身近に感じていただくことを目的とします。



.....
★ ハイライトよねやま 149号 ★ 2012年8月10日発行

:: 今月のピックアップ ::

- 1. 寄付金速報 — 2012-13年度がスタート —
- 2. 来春採用の奨学生募集がスタート
- 3. 台湾学友会による日本人対象奨学金、第4期生が決定
- 4. 韓国の学友が個展開催

《今月のピックアップ記事》

- 2. 来春採用の奨学生募集がスタート

地区米山奨学委員会からの報告により決定した指定校は全国で500校で、前年度の475校から増加(※1)。指定校からの被推薦者数は1,490人(前年度1,601人)で、この中から新規採用奨学生約500人が選ばれます。前年度に比べて被推薦者数が減少している理由は、全体採用数が800人から700人に縮減されるためです。大学・大学院生以外を対象とする地区奨励奨学金を導入した地区は、昨年より1地区減少して5地区10校、うち2校が初指定となりました。指定校から留学生を推薦してもらうにあたり、全国共通の応募資格に加え、地区独自の要望を提示したのは34地区中25地区でした。その多くが、国籍が偏らないよう配慮を望み、日本語運用能力に長けた留学生を求めるもので、昨年とほぼ同様の傾向でした。募集要項・申込書は8月14日付で指定校宛てに発送予定です。

その他の記事は、ぜひPDF版をご覧ください。→ <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/summary/pdf/highlight149.pdf>



9月18日(火)	9月25日(火)	10月2日(火)	10月9日(火)
親睦夜間例会 19:00～ (五一寿司)	卓話担当: 吉田濱一さん (トヨタ博物館)	卓話担当: 中川清子さん (トヨタ博物館)	卓話担当: 冨田盛義さん (長久手温泉)